



私たちが力になりたい!

5月中旬、宮崎優実さんと渡邊愛桜衣さんから、手作りマスク100枚を寄附していただきました。マスクは一つひとつ包装され、「きもちをこめて」のメッセージ入りです。彼女たちをマスク寄附へと動かしたものは何なのでしょう?その真意に迫ります。



西中学校3年生
みやざきすくみ
宮崎優実さん



西中学校3年生
わたなべあおい
渡邊愛桜衣さん

私たちが作った
マスクです!



今、自分たちができること

二人がマスクの製作を始めたのは、4月中旬ごろ。宮崎さんが学校の臨時休業中に「ある中学生がマスクを手作りし、寄附した」というニュースを見て、「マスク不足の今、自分たちにはできないことはないか」と考え、マスク製作を思い立ちました。「どんな人が使ってくれるのか」なんて、ワクワクしながら作りました」と笑顔で話す二人。製作期間は約1か月。「生地は使用しやすいように、明るい色を選びました。作り方は動画を参考にして、全てミシンで。家庭科で習ったことが役に立ちました(笑)。喜んでもらえるんじゃないか」と宮崎さん。日々の生活が制限される中で、学校の課題をこなしながら、マスクを製作した二人。原動力は「力になりたい」その一心です。

感謝の言葉を胸に

寄附の約1か月後、二人にひまわりクラブの児童から色紙が届きました。色紙には「マスクかわい

いありがとう」「たいせつにします」など感謝のメッセージが。渡邊さんは「皆さんからの心のこもったメッセージは宝物にします」とうれしそうに話してくれました。将来の夢は「人のために働ける仕事につく(宮崎さん)」、「誰も思いつかないようなものを作る(渡邊さん)」こと。二人のこれからの活躍に期待です。

フェイスシールドの寄附をいただきました



6月10日宮崎忍さん(写真右)、直輝さん(写真左)、優実さん(写真中央)からフェイスシールド72枚を寄附していただきました。マスク寄附の経験から、「人に喜んでもらうことのうれしさ」を学んだという、優実さん。「新型コロナウイルスをみんなで乗り越えよう」という気持ちをこめて、「OneHeart心をひとつに…」というメッセージが書かれています。



編集後記

昨年10月、台風第19号の影響により、県内でも記録的な大雨となりました。自宅近くでは堤防が決壊し、普段は田園の広がる穏やかな景色が一変しました。その光景を目の当たりにし、自然のすさまじい力に恐怖を感じました。今月号には「鶴ヶ島市内水ハザードマップ」が折り込まれています。今後、起こりうる災害に備えるため、ぜひ、マップを手に取り、ご家族でご覧いただければと思います。ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ 10200001@city.tsurugashima.lg.jp

まちのお知らせをスマホでチェック!

市では、SNSなどでも行政情報を配信しています。ぜひ、ご利用ください。問合先 秘書広報課広報広聴担当



鶴ヶ島市公式ツイッター @tsurugashima



鶴ヶ島市公式アカウント Facebook



つるがしまメールマガジン MAIL MAGAZINE



マチイロ



市区町村のニュースをもっと身近に マイ広報紙 Web版サービス